

短期予報解説資料 2026年1月8日03時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa -36℃以下の寒気をもつトラフが深まりながら日本海を東進、その上層正渦と結びついて低気圧が急速に発達しながら日本海北部を北東進。寒冷前線南側の下層暖湿気の影響で東北～近畿の日本海側で活発な発達雷を検知し、強い雨を解析。
- ② ①の低気圧や前線周辺では気圧の傾きが大きくなっており、全国的に風が強く波が高くなっている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、8日昼前にかけて宗谷海峡近くを北東進し、朝にかけて寒冷前線が北・東日本を通過する。前線通過後は、北・東日本中心に寒気が流れ込むが、500hPaや700hPaのサーマルトラフが夕方前後に通過するまで日本海側を中心に大気の状態が不安定。北～西日本では8日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。日本海を南下するシアーライン付近など局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 8日の前線通過後は冬型の気圧配置が強まる。2項①のサーマルトラフ通過後は9日にかけて緩む。西・東日本は高気圧に覆われるが、北日本はやや強い西風が続く。沖縄・奄美は気圧の谷の影響を受ける。下層寒気は850hPaで北日本-12～-18℃、東日本-9～-12℃、西日本-6～-9℃と強く、日本海側は海沿いの平地でも積雪となる所があるが、風が強いため、山沿いを中心に夕方前後をピークに大雪となる所がある。北・東日本は9日にかけて大雪による交通障害に注意・警戒。着雪やなだれに注意。
- ③ 2項①の前線や低気圧、2項②の冬型の気圧配置の影響で、気圧の傾きが大きく、雪を伴った強い風や局地的に非常に強い風が吹き、波が高くしけや大しけとなる所がある。北海道地方では8日は暴風雪と高波に警戒、北陸地方では8日は、強風や風雪、高波に注意・警戒。全国的に9日にかけて、強風や風雪、高波に注意。
- ④ 10日には、中国東北区からシベリアにかけて500hPaで-48℃の寒気をもつスケールの大きな寒冷渦が形成される。上層トラフ東側を低気圧が発達しながら日本海を進んで、広範囲で風が強まり波が高まる。また、夜には北～西日本で強い寒気の流れ込みが始まる。北～西日本では日本海側を中心に強風や風雪に注意・警戒、高波に警戒。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項〔量的予報等〕

- ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 降雪量(06時からの24時間)：東北・北陸60、北海道・関東甲信・東海40、近畿・中国25、九州北部10cm。
- ③ 波浪(明日まで)：北海道6、東北5、北陸・伊豆諸島・近畿・中国・九州北部4、その他全国的に3m。
- ④ 高潮(明日まで)：北陸では目先注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。

